

SPATULA WITH HOLDING FUNCTION

Patent Number: JP10192165
Publication date: 1998-07-28
Inventor(s): KUMAKURA SHOICHI
Applicant(s): KUMAKURA SHOICHI
Requested Patent: ☐ JP10192165
Application Number: JP19970032540 19970107
Priority Number(s):
IPC Classification: A47J43/28
EC Classification:
Equivalents:

Abstract

PROBLEM TO BE SOLVED: To provide a spatula in which a baked piece of food can be held to be kept without easily moving, and in which it can be turned over in baking a meat-and-vegetable pancake or the like which is difficult to be turned over during baking without requiring a strong grip.

SOLUTION: A tong-shaped stainless steel plate is folded in form in the middle to provide a function of a spring to form a handle 1, a strip part 2 at one end of it is folded down to cross the other end side at a hole part 4 formed in part of an upper spatula part 3, and it is coupled with a lower spatula part 5 as a separate member by spot-welding to form a spatula, so both end parts 6 can be kept in a closed condition without specially applying a grip to the handle 1. In addition, a tip part of the upper spatula part 3 may be saw-teeth formed to securely hold a subject piece of food without slipping, or it may be provided with through holes 9 to provide draining effect. In addition, for keeping a subject food holding condition, protruded parts 10 may be provided on a crossing part of the handle 1, with recessed parts 11 provided in the strip part 2 folded down.

Data supplied from the esp@cenet database - I2

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平10-192165

(43) 公開日 平成10年(1998) 7月28日

(51) Int.Cl.⁶
A 4 7 J 43/28

識別記号

F I
A 4 7 J 43/28

審査請求 未請求 請求項の数 2 書面 (全 4 頁)

(21) 出願番号 特願平9-32540

(22) 出願日 平成9年(1997) 1月7日

(71) 出願人 394009599

熊倉 庄一

新潟県新潟市京王1丁目13番13号

(72) 発明者 熊倉 庄一

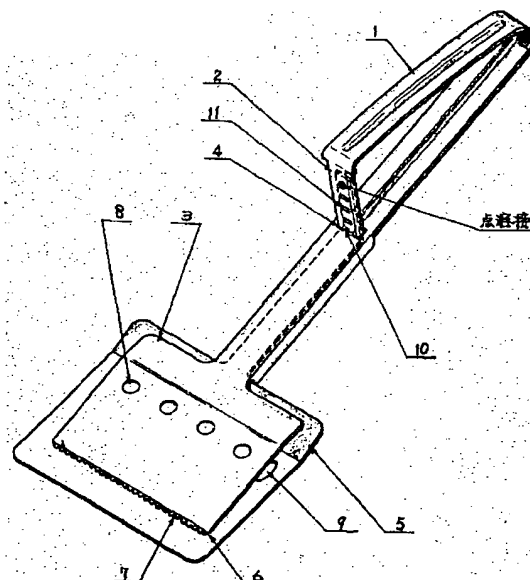
新潟県新潟市京王1丁目13番13号

(54) 【発明の名称】 挟み機能付き返しヘラ

(57) 【要約】

【課題】 お好み焼き等を焼成中に挟んだまま裏返しにするには握力が必要で難しいので、挟んだ焼成物は容易に動かず、しかも、握力で保持して裏返しをしなくても良いようにする。

【解決手段】 灰ならし形のステン鋼板の中間部をU字形に折曲げてバネの機能を付加した持ち手1とし、その一端の帯状部2を下に折曲げて、他端の上部へラ3側の一部分に設けた穴部4で交差させて、別部品の下部へラ5と点溶接で結合させることにより返しヘラとなり、持ち手1に握力を加えない状態で両端部6が「閉状態」になる。更に、被焼成物が滑り難く確実に保持できるように、上部へラ3の先端部分を鋸刃状7にしたり、貫通穴9を設けて汁きり効果を持たせる。更に、被焼成物を保持した状態を維持する為に、持ち手1の交差部分に凸10を下に折曲げた帯状部2には凹11を設ける。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 片側に板状の上部ヘラを有する帯状の持ち手の中間部分をU字形に折返してバネ機能を付加した持ち手の反対側の部分を、上部ヘラ側の持ち手の一部分で交差した状態になるように下方に折曲げて、板状の下部ヘラと結合することにより、力を加えない状態でもバネ力により上下二枚のヘラ部が閉じた状態になる「挟み機能付き返しヘラ」。

【請求項2】 持ち手の交差部分に嵌合部分を設けて、被焼成物を挟んだままの状態を確実に保持できるようにした請求項1の「挟み機能付き返しヘラ」。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、お好み焼き等を焼いている途中で使用する返しヘラに関するものである。

【0002】

【従来の技術】お好み焼きやホットケーキ等を焼いている途中で焼き面を変えたり、取り出す為に使用する従来の返しヘラは、お好み焼き等を挟んだまま裏返しにするのにかなりの握力が必要で老人や子供には実用上に不具合があった。

【0003】

【発明の実施の形態】

① 挟んだ焼成物を握力でそのまま保持しなくても良いように、バネ機能を有する持ち手部に力を加えない状態では上下二枚のヘラ部がバネ力によって閉じた状態になっており、握力を加えた時には上下二枚のヘラ部が開いてお好み焼き等の焼成物を挟める状態になるようにする。

② 挟んだ焼成物が容易に動かないように上のヘラの先端部分を鋸刃状にしたり、先内面に滑り止め用の突起部分を設ける。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】従来の返しヘラには次のような不具合がある

① 挟んだ焼成物を握力でそのまま保持しなくても良いようにする。

② 挟んだ焼成物が容易に動かないようにする。

【0005】

【課題を解決するための手段】このような不具合点を解決する為に、具体的に次のような構造にする。

① バネ機能を有する持ち手部に力を加えない状態では上下二枚のヘラ部は閉じた状態にし、手で握ると上下二枚のヘラが開いてお好み焼き等の焼成物を挟むことができ、放すと焼成物をそのまま保持できるようにする。

② 挟んだ焼成物が容易に動かないように上のヘラの先端部分を鋸刃状にしたり、先内面に滑り止め用の突起部分を設け、この突起部分に嵌合する下のヘラには逃げ穴を設ける。

③ 持ち手の貫通して交差する部分に凸部と凹部又は穴

などの嵌合部分を設けて、焼成物を挟んだままの状態をより確実に保持できるようにする。

【0006】

【実施例】以下、本発明の二つの実施例を『図1』と『図2』及び『図3』外観斜視図と断面図に基づいて説明する。『図1』の実施例の外観斜視図は、灰ならしのような形にしたステンレス鋼板の中間部分をU字形に折曲げてバネの機能を付加した持ち手1の一端の太い灰ならし状部分は上部ヘラ3となり、細い帯状の部分2は上部ヘラ3側の持ち手1の一部分に設けた穴4で交差して貫通した状態になるように下方に折曲げて、別部品である板状の下部ヘラ5と点溶接にて一体化されることにより、返しヘラは持ち手1に握力を加えない状態で両端部分6が「閉」の状態になる。尚、先端で重なる上部ヘラ3は下部ヘラ5よりも小さくして、しかも、お好み焼き等の被焼成物が滑り難く確実に保持できるように、上部ヘラ3の先端部分を鋸刃状の形7にする。更に、上部ヘラ3平面部分には内側に向かって複数個のバーリング加工8を施す。又、下部ヘラ5の平面部分に貫通穴9を設け、汁物のじきり作用も兼ね備えさせる。更に、被焼成物を保持した状態をより確実に維持させる為に、持ち手1の交差・貫通した水平部分には凸10を上から下に折曲げた帯状の部分2には角穴11を設ける。『図2』は『図1』の中央断面図である。『図3』は『図1』の変形実施例の外観斜視図であり、ステンレス鋼板製の持ち手1をステンレス鋼の棒製にしたもので、ステンレス鋼棒をU字形に折曲げてバネの機能を付加した持ち手12は力を加えない状態で両端部分13が「閉」の状態になるように棒を途中で交差するように折曲げる。両端部分13はステンレス鋼製の上部ヘラ14と下部ヘラ15に溶接等で一体化に接合させる。以上の「挟み機能付き返しヘラ」は上記のようなステンレス鋼等の金属製だけでなく、ナイロン等の耐熱プラスチックの成型品でも製造することができる。

【0007】

【発明の効果】

① お好み焼き等の焼成物を挟んだまま握力で保持しなくても良い。

② 挟んだ焼成物が滑ったり動いたりし難い。

以上により、握力が足りない人でも、容易に焼成物を裏返すことができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】図1は持ち手部に力を加えない状態で上下二枚のヘラ部が閉じた状態になる金属板製の「挟み機能付き返しヘラ」の実施例の外観斜視図。

【図2】図2は図1の中央断面図である。

【図3】図3は金属棒製の図1の変形実施例図である。

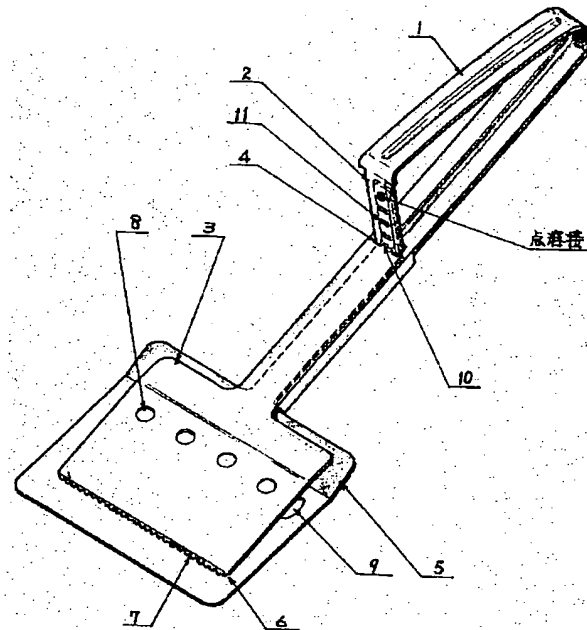
【符号の説明】

1 持ち手

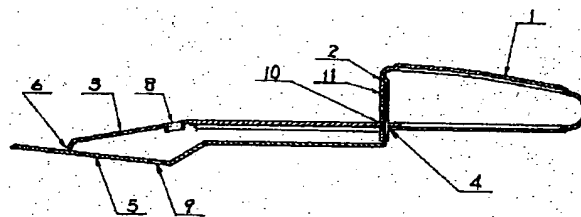
2 細い帯状の部分

- | | |
|-----------------|-------------|
| 3 上部ヘラ | 10 凸部 |
| 4 持ち手の一部分に設けた穴部 | 11 角穴 |
| 5 下部ヘラ | 12 持ち手 |
| 6 両端部分 | 13 持ち手の両端部分 |
| 7 鋸刃状の先端部分 | 14 上部ヘラ |
| 8 バーリング加工 | 15 下部ヘラ |
| 9 貫通穴 | |

【図1】



【図2】



【図3】

